



陽光

令和7年2月4日 第21号 文責 梶原 圭一



提案が実現する喜びを感じて

12月17日(火)に、6年生が「菊陽町の未来提案」を行ったことは、学校だよりもお知らせしました。その中で、「夜間の安全な暮らしについて」というテーマで発表したグループがありました。その提案を聞かれた町当局の方々が、大津警察署に相談されたところ、実際にその提案を聞きたいと回答があり、1月16日(木)に来校されました。当日は、菊陽町町長や教育長も来校され、直接子どもたちの発表をご覧になりました。

発表を聞いた後、大津警察署の方が、提案にあった内容について警察署として取り組んでいることや、子どもたちに注意してほしいことなどを伝えられました。また、他人に迷惑をかけず、真面目に生きることの大切を語っていただきました。

このような未来提案は、菊陽町の6つの小学校の6年生がそれぞれ取り組みました。今回、大津警察署で取組を強化されたように、それぞれの提案が実現に結びついていくことは、子どもたちの自信や励みにつながります。本校の6年生が提案したことで、すでに実現しているものもあります。この取組を通して、学んだことを生かしながら、自分たちの意見を発信する素晴らしさを感じてくれたらうれしいです。



日本の伝統芸能に触れて

1月23日(木)に、文化庁の「文化芸術による子供育成推進事業」として、日本の伝統芸である能舞台の鑑賞会が町の図書館ホールで行われ、本校からは4年生と5年生が参加しました。菊陽町の「鼻ぐり井出」を題材とした狂言『熊本三銃士』や能『高砂』を鑑賞しました。狂言『熊本三銃士』には、本校の4年生4人も演者として出演し、舞台を盛り上げてくれました。リハーサルの時間は少なかったのですが、セリフや動きをしっかりと覚え、堂々と演じる姿が素晴らしかったです。また、鼓を実際にたたいたり、能面をつけて能楽の動きを体験したりする時間もありました。本校の子どもたちも参加しましたが、素晴らしい経験となったことと思います。

能や狂言は、600年ほど受け継がれてきた我が国の伝統芸能です。しかし、映像等で見ることはあっても、実際に鑑賞する機会はほとんどないのではないのでしょうか。今回このような貴重な機会を得られた子どもたちは、大変幸運だと感じます。この経験をきっかけに、菊陽町や日本で古くから受け継がれてきている伝統文化に興味をもってくれることを期待しています。



◆◆「感謝の心」を育む給食週間◆◆

全国の学校給食週間の時期に合わせて、1月14日(火)から1月20日(月)の5日間を給食週間とし、給食の意義や役割を考える期間としました。本年度は、「お米の変身 国際料理理解」というテーマで、色々な国の献立が紹介されました。最終日には、給食が始まった当時の献立が提供され、各学年に応じて、毎日安心して食べられると感じ、感謝の気持ちを深める取組も行いました。



<今後の主な予定>

2月18日(火) 新入生体験入学

2月27日(木) 授業参観・学級懇談会